

市第9次総合計画策定に係る地域懇談会実施結果

1 目的

市第9次総合計画を策定するにあたり、市民とまちづくりに関する意識を共有し、意見等を参考に策定に取り組むため、市と地域の未来を考える懇談会を、市内各地域で実施しました。

2 意見交換テーマ

「10年後の須賀川市の姿、この地域の姿」

3 実施結果（開催日順）

開催日	会場	参加者
5月24日（火）	東公民館	15名
5月26日（木）	西袋公民館	20名
5月30日（月）	稲田公民館	26名
5月31日（火）	小塩江公民館	16名
6月 2日（木）	大東公民館	23名
6月 6日（月）	仁井田公民館	19名
6月 9日（木）	長沼保健センター	19名
6月10日（金）	岩瀬市民サービスセンター	16名
6月13日（月）	市民交流センターtette	9名
	計	163名

4 参加者の主な内訳（自由参加、居住地区以外の会場への参加も可能）

明るいまちづくりの会会員（町内会長・行政区長、育成会会長、父母と教師の会会長、女性団体代表等）、地域住民など



5 意見集計

政策区分	意見数	地域別内訳								
		須賀川	浜田	西袋	稲田	小塩江	仁井田	大東	長沼	岩瀬
1-1 子育て環境の充実	44	2	2	3	7	8	6	8	6	2
1-2 学校教育の充実	19	1		1	1	12	2	1	1	
1-3 生涯学習・スポーツの推進	11	2	6	1	1		1			
1-4 健康で安心して生活できる環境の充実	5	3	1	1						
1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	18	3		3	4		3		5	
2-1 防災・減災対策の推進	17	1	10		2	1		3		
2-2 安全で安心な生活の推進	53	6	3	13		7	6	5	9	4
2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	46	1	5	7	1	7	6	13	3	3
3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	31		2	4	3	5	4	1	6	6
3-2 農林業の振興	43		3	7	5	10	7	3	4	4
3-3 商工業の振興	7			3	1		2	1		
4-1 地域の宝の活用と交流の推進	49	1	6	3	4	3	5	8	8	11
4-2 市民協働によるまちづくりの推進	104	3	16	19	11	5	9	19	10	12
4-3 開かれた行政の推進	8		1	2	3	1		1		
計	455	23	55	67	43	59	51	63	52	42

※主となる政策区分で集計しています。

6 主な意見（抜粋・要約）

（1）市民協働によるまちづくりの推進（全地域）

- ・地域の役員の担い手が見つからない。
- ・行政区の存続に危機感を抱いている。地域のコミュニティが維持できるか不安である。
- ・近隣の町内会や公民館単位などで連携していくことができればと思う。
- ・地域の行事等への参加者が減ってきている。コミュニティへの意識が低くなってきている。
- ・地域コミュニティを維持していくためにも、核になる人材を育て、増やしていければよい。

（2）地域の宝の活用と交流の推進（全地域）

- ・子どもたちが大学卒業後に市に戻ってくるように、小さいころから郷土愛を育てる取り組みを行う。
- ・地域の行事等に携わり、「自分たちでやったんだ」と思うことが、地域への誇りにつながる。

- ・地域の誇れるもの、自慢できるものがあれば、子どもたちはどんどん情報発信をして、魅力を広げていけると思う。
- ・SNSを有効に活用して、興味を持った人がさらにその魅力を広めていく循環を作る。
- ・魅力のPRの仕方が上手であれば、もっと発展していくと思う。

(3) 子育て環境の充実（全地域）

- ・少子高齢化の進行をかなり感じている。
- ・須賀川に住んでいた人が、子どもができたことを機に、子どもへの手当てが充実している市外に転出してしまった。子育て支援をもっと手厚くしていかなければならないと思う。
- ・この地域で結婚をして、安心して子育てできる環境づくりが必要。
- ・子育てしやすいまちが、人口が増えるまちだと思う。

(4) 生活基盤の充実と循環型社会の形成（全地域、特に大東地域）

- ・人口減少を抑制するためにも、土地の用途区分の緩和や見直しを早急に図ってほしい。
- ・都市計画法と農地法の制限によって、土地があっても自由に使うことができない。社会的な状況は変化しており、土地利用の考え方を変えていく必要がある。
- ・農地法の絡みで家を建てられず、子どもが戻ってこられない状況である。
- ・空き家、空き地が増加している。空家の利活用につながる取り組みを進めていくべき。

(5) 安全で安心な生活の推進（ほぼ全地域、特に西袋地域）

- ・免許を返納すると交通手段がなく、返納できないでいる。
- ・免許返納に不安を感じる。安心して生活できるよう、公共交通の利便性向上を検討してほしい。
- ・地域の足の問題を解決したい。新しい取り組みを始めやすい制度がほしい。
- ・地域によっては、時間のある方に運転してもらい、乗り合いで病院や買い物に行くなど、助け合っているところもある。

(6) 農林業の振興（ほぼ全地域、特に小塩江地域）

- ・農業は人手不足、担い手不足が進んでいる。後継者がいない。
- ・米の値段が安く、生計を立てられない。
- ・市が主導的に安定を確保しないと、農業に取り組む若い人は育たないのではないか。
- ・地域の人で10年後の農業の姿を話し合い、さらに飛躍させたい。また、この地域で成功事例を作りたい。

(7) 学校教育の充実 (特に小塩江地域)

- ・地域の小中学校は10年かからないうちに無くなるだろう。学校がないと若い人は住まない。
- ・学区再編ができれば、地域としての生き残りもできるのではないか。
- ・子どもが多い地域と少ない地域の偏りがある。希望者は他地域の学校にスクールバスで送迎するなど、均衡を図ってはどうか。

(8) 防災・減災対策の推進 (特に浜田地域)

- ・水害により、移転している人もいる。確実な防災対策を推進していくべき。
- ・消防団のなり手不足が深刻である。人が少なくなってきたなら、少ないなりに見直しを図るべきではないか。

1 概要

地域	須賀川		
会場	市民交流センターtette		
開催日	6月13日（月）		
参加者数	男性	8	人
	女性	1	人
	計	9	人

意見 総数
23

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
須賀川	A 1	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	50年前の栄町周辺は賑やかだった。当時は、旅館などもあって宿泊客もいたが、今はとても少ない。市内に観光名所はたくさんあるのだから、交通の要衝として駅前の活性化に期待したい。	1
須賀川	A 2	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	地域の伝統を大切にしまちづくりも大切だと思う。	1
須賀川	A 3	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	仁井田地域は女性が元気だからまちが明るい。自分たちの力で地域の行事を20年間続けてきた実績もある。須賀川全体が女性が活躍できるまちになるといい。	2
須賀川	A 4	2-1 防災・減災対策の推進	丸田町はもともと住民が協力的な良いまち。水害の心配がなくなれば印象も違うと思う。	1
須賀川	A 5	1-1 子育て環境の充実	子どもが少ない印象が強い。登下校の際に、子どもが歩いているだけでまちに活気があるように感じる。昔のように、地域で子どもを育てる環境があると良いと思う。	2
須賀川	A 6	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	少子高齢化が進む中で、特に福祉分野で、このまちに根付いて働いてくれる若者が必要。	1
須賀川	A 7	2-2 安全で安心な生活の推進	免許返納や将来の体のことを考えると、地域のお店まで連れて行ってくれる交通網があると良い。定期的（月2回程度）な移動販売もあると良い。	2
須賀川	A 8	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	誰でも気軽に集まれる地域のサロンがあると交流が生まれ、まちが明るくなる。人が集まれば移動販売もそこを目指してきてくれるのではないか。	1
須賀川	A 9	1-4 健康で安心して生活できる環境の充実	病院の数が少ない印象。福祉や医療がそろったまちには住み続けたいと思うのではないか。	2
須賀川	B 1	2-2 安全で安心な生活の推進	公共交通機関が不安。将来、免許返納も考えているが、現状のように不便なままでは、まだまだ自家用車に頼るようになってしまう。	1
須賀川	B 2	2-2 安全で安心な生活の推進	電動カートのシェアリングや電気自動車での送迎を導入してはどうか。	1

須賀川	B 3	2-2 安全で安心な生活の推進	市街地でもバスは朝と夕方の通勤・通学の時間以外は本数が少なく、不便である。	1
須賀川	B 4	2-2 安全で安心な生活の推進	自動車に向かって手を挙げると相乗りさせてもらえる（ヒッチハイクのようなもの）社会になると面白いのではないかと。ただ、そのためには子どものころからの道徳の教育が必要にもなると思う。	1
須賀川	B 5	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	どこの自治会もなかなか役員の後継者が見つからず、世代が代わらないと悩んでいる。	1
須賀川	B 6	1-3 生涯学習・スポーツの推進	子どもの数が減少しており、それに伴い育成会が衰退している。育成会を解散している自治会もある。	1
須賀川	B 7	1-3 生涯学習・スポーツの推進	昔は青少年スポーツ大会があり、その大会を通じて子どもも大人も交流があった。子どもの交流があると大人も交流が生まれる。	1
須賀川	B 8	1-2 学校教育の充実	昔は学校の先生に担当地域の割り当てがあり、その地域で集まりがあると担当の先生も出席していた。地域と学校の繋がりが強かった。	1
須賀川	B 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	コロナ禍でも地域の行事を継続して実施したおかげで、コロナ禍が落ち着いた今でもスムーズに実施できている。行事は一度中断してしまうと、再開するのにとても労力を必要とする。	1
須賀川	B 10	1-4 健康で安心して生活できる環境の充実	医療機関の少なさを感じる。緊急搬送で郡山市の病院に搬送されることも珍しくない。搬送先が見つからない、または、見つかったとしても遠いことで救えなかった命がある。	1

1 概要

地域	浜田		
会場	東公民館		
開催日	5月24日（火）		
参加者数	男性	12	人
	女性	3	人
	計	15	人

意見
総数

55

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
浜田	A 1	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地区の役員の担い手がないこともあり、役員を特定の人が続けすぎているため、世代交代の問題もある。	5
浜田	A 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	家庭や仕事、PTA等の学校行事などもある中で、地区の役員等はかなり負担になる。	2
浜田	A 3	1-3 生涯学習・スポーツの推進	育成会がなくなってしまったが、現在復活を目指している。なかなか進まない。	1
浜田	A 4	1-3 生涯学習・スポーツの推進	育成会運営のノウハウがある役員OB等が、現役世代を支援するしくみがあれば、会の再建や存続につながる。	1
浜田	A 5	1-3 生涯学習・スポーツの推進	育成会がなくなった理由として、「子どもが少ない」こともあれば「子どもは多いが運営する人が少ない」こともある。地域によって課題が違う。	2
浜田	A 6	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	育成会がなくなってしまっても、町内会が目的としていることに「地域の子どもの健全育成」が含まれていることから、町内会がやるべきことは変わらない。	1
浜田	A 7	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	コロナによって町内会組織への意識が低くなってきている。	1
浜田	A 8	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	町内会長へタブレットを配布すれば、市の情報を地域内に広めるスピードが出て効果的である。	1
浜田	A 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	公民館などで、各町内で行っている行事やイベントを紹介するなど、情報共有の場が必要である。	1
浜田	A 10	2-1 防災・減災対策の推進	消防団のなり手不足が深刻である。	2
浜田	A 11	2-1 防災・減災対策の推進	自主防災組織について、組織の作り方など、市の誘導が必要である。災害が発生した場合の近隣町内会の動きも分かるように市が示して欲しい。	1

浜田	A 12	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	子どもが遊べる地域、高齢者が活発に活動している地域にしたい。	1
浜田	B 1	2-1 防災・減災対策の推進	水害により移転している人もいる。確実な防災対策を推進していくべき。	4
浜田	B 2	1-1 子育て環境の充実	どんどん子どもの数が減ってきている。若い世代が住みやすい、戻ってきたいと思えるような地域であってほしい。 また、そのためには子どもの頃からの意識付けも大切である。	2
浜田	B 3	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	空き家が増加している。若い世代が利用しやすいリフォーム支援なども含め、空き家の利活用につながる取り組みを進めていくべき。	2
浜田	B 4	1-4 健康で安心して生活できる環境の充実	地域の高齢化率が高まり、1人暮らしの高齢者も増えている。元気な高齢者づくりができればよい。	1
浜田	B 5	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	みんなで地域の魅力を磨く取り組みをすることで、身近な宝の魅力化が進み、活用できれば良い。地域の歴史を探索するなど、地域を知るきっかけにもなればよい。地域への愛着にもつながるのではないかな。	2
浜田	B 6	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域力が低下していることを感じており、1つの町内会ではできなくなってきたことも増えている。近隣の町内会や公民館単位などで連携していくことができればと思う。	1
浜田	B 7	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	コロナ禍もあり、地域の祭りや集まりが減ってきている。Rojimaの高齢者版などもあるとよい。一人暮らし高齢者の交流などもできるのではないかな。	1
浜田	B 8	3-2 農林業の振興	子どもを増やすためには仕事が必要だが、少ない現状にある。一方で農家は人手不足、高齢化が進んでいるため、就農したい人とのマッチングができるとよい。	2
浜田	B 9	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	浜尾遊水地の利活用も検討したい。子どもたちの学習の場にもなれるのではないかな。	1
浜田	B 10	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	原発問題もあるので、再生可能エネルギーの普及が進んでほしい。	1
浜田	B 11	2-2 安全で安心な生活の推進	様々なことを進めるにあたって、特に高齢者向けの地域交通も考えなくてはいけない。	1
浜田	B 12	4-3 開かれた行政の推進	総合計画は中学生でもわかる言葉づかいで書いてほしい。	1
浜田	B 13	2-1 防災・減災対策の推進	災害時に他の地域の人や地区の避難所に受け入れるなど、地域間での連携も重要と思われる。	1
浜田	C 1	2-2 安全で安心な生活の推進	免許返納に不安を感じる。 老人でも安心して生活できるよう、公共交通の利便性向上を検討してほしい。	2

浜田	C 2	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	就労の場を創出すれば、移住者も増えるのではないか。	2
浜田	C 3	1-3 生涯学習・スポーツの推進	学びの場が増えれば、移住者も増えるのではないか。	2
浜田	C 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	高齢者も住みやすい地域にしたい。みんなで支えあう社会を目指し、コミュニティを再生したい。	2
浜田	C 5	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	若者が、大学卒業後に市に戻ってくるように、幼少から郷土愛を育てる取り組みを行う。	2
浜田	C 6	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	市の有名な人物の紹介も良いが、身近な人を取り上げたり、現在のシンボルになる人物の紹介も良いのではないか。	1
浜田	C 7	3-2 農林業の振興	就農支援が充実すると良い。	1
浜田	C 8	2-1 防災・減災対策の推進	安全安心に暮らせるまちを目指して、防災意識を高めると良い。	2
浜田	C 9	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	住宅を建てる際の住宅ローンの優遇ポイントを設定するなど、インパクトのある政策によって定住者が増えるのではないか。	1
浜田	C 10	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	空き家、空き地が多くなっている。街並みをよくすれば、移住者もふえるのではないか。	1

1 概要

地域	西袋		
会場	西袋公民館		
開催日	5月26日（木）		
参加者数	男性	19	人
	女性	1	人
	計	20	人

意見
総数

67

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
西袋	A 1	2-2 安全で安心な生活の推進	高齢者の移動手段がない。バスの通らない地域もあり、不便に感じる。	3
西袋	A 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	浪江町や大熊町から原発事故の避難で転入してきている人との交流があり、多様な人たちとのコミュニティの形成ができていると感じる。	1
西袋	A 3	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	袋田地区は土地の単価が安いので、若い人向けに宅地の整備・分譲などしたらどうか。ただ、市街地調整区域や様々な規制があるため、現実的に難しい。	1
西袋	A 4	4-3 開かれた行政の推進	5年前にもこのようなワークショップを行ったと思うが、この5年間の結果はどうだったのか。目標を掲げても、達成されているかわからない。情報提供や意見を出してもどうなったのかわからないのでは、意味がないのではないのか。	2
西袋	A 5	1-1 子育て環境の充実	懇談会の概要説明の中でも、人口減少について説明があったが、やはりとても深刻な状況だと改めて思った。	1
西袋	A 6	3-3 商工業の振興	道の駅ができる話があるようだが、場所については4号線沿いなどのほうが集客を見込めるのではないのか。	1
西袋	A 7	1-3 生涯学習・スポーツの推進	牡丹台球場は使っているのか。西袋地区にも高校野球ができるような球場を作ったらいいのではないのか。人の流れを呼ぶことで、様々なところに良い影響を与えらると思う。	1
西袋	A 8	2-2 安全で安心な生活の推進	高速道路や空港はあるが、新幹線の駅がない。交通の便に少し不安を感じる。	1
西袋	A 9	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	大企業を誘致することで、空き地の活用や働き口を確保し、若い人たちも安心して暮らせるまちづくりが必要だと思う。	2
西袋	A 10	3-3 商工業の振興	昔からあるお店や企業と新しいお店や企業などをバランスよく取り入れ、魅力あるまちづくりをしていくことが大切。	2
西袋	A 11	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	西川地区の景観が良くなった。J T跡地などに企業を誘致したことでまちが明るくなり活性化されてきたのではないのか。	1

西袋	A 12	1-4 健康で安心して生活できる環境の充実	病院があることで安心して暮らせるが、今後は医師の確保も重要な事であり、医療の充実を図ってほしい。	1
西袋	A 13	2-2 安全で安心な生活の推進	安全な生活を送っていくためにも、防犯カメラの設置を進めてほしい。また、通学路などにはもう少し防犯灯の設置を検討してほしい。	3
西袋	A 14	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	ごみがない地域はやはりいいものである。一人一人の意識の問題でもあるが、きれいにする取り組みとしてSDGsの推進を図っていくことが大切。	2
西袋	A 15	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	インスタグラムなどを活用し、地域のいいところをどんどん発信してはどうか。例えば、キャンプがブームとなっている今、キャンプに関する情報やいいところなどを発信するなど小さなことからやってみる。	1
西袋	B 1	1-2 学校教育の充実	学校教職員の働き方改革を進めるべき。かつて学校の先生といえば、子どもたちが将来なりたい職業の中で人気だったが、今の子どもたちはなりたがらない。	1
西袋	B 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	公民館を中心とした、市内小・中学校同士の交流の機会を増やしてはどうか。	1
西袋	B 3	1-1 子育て環境の充実	結婚する人が減っている。スポーツなどを活用した交流（婚活）の機会を設けてはどうか。	1
西袋	B 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	高齢化社会であるはずが、老人クラブの会員数は減っている。人との交流をしたがらない人が増えてきているのではないか。	2
西袋	B 5	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	年間を通して、人を呼び込める名所があった方がいい。	1
西袋	B 6	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	人が住み続けるためには、人との交流や地域への愛着を持たせる。	1
西袋	B 7	2-2 安全で安心な生活の推進	ニュータウンができたことで、人口が増えていることを実感する。ニュータウンをもっと増やせば、人口も増えていく。	1
西袋	B 8	1-5 とともに支えあう福祉社会の推進	高齢者が集まりやすい環境づくりが必要。人と交流したがない人が増えてきていると感じる。高齢者が元気であるためには、コミュニティの活性化が重要だと思う。	2
西袋	B 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	昔は自宅前の道路の草むしりが、近所とのコミュニケーションの場になっていたが、今は見かけない。日時を決めて、一斉に草むしりをするイベントはどうか。近隣や昔から住んでいる人との会話のきっかけにもなり、地域のコミュニティに入りやすくなる。	3
西袋	B 10	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	郡山市では「スポGOMI（スポーツごみ拾い）」をやるようだが、コミュニティの活性化には、こういったイベントを実施するものいいと思う。	2
西袋	B 11	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	昔、民間企業が主催するごみ拾いに子どもたちと参加したことがあったが、その後、日常生活の中でも子どもたちは率先してごみ拾いするようになった。子どもたちの意識が変わった。	2

西袋	B 12	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	何をするにも「人が集まる」ことが重要。	1
西袋	B 13	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	小さい頃から地域の行事やイベントに参加することが大事だと思う。	1
西袋	C 1	2-2 安全で安心な生活の推進	ここ数年、西袋地域内で殺人事件や泥棒など、凶悪事件が発生している。不審者情報も多いため、安全な生活を送っていくためにも、防犯カメラの設置を進めてほしい。	1
西袋	C 2	3-2 農林業の振興	後継者不足が深刻である。世界情勢も変わり、食料自給率も議論されるなか、5年後、10年後を見据えると須賀川市でも後継者の養成は重要である。ひと農地プランを活用して取り組んでほしい。	4
西袋	C 3	3-2 農林業の振興	農業は、天候によって収入が左右されてしまうこともあり、後継者が育たないのではないかと。市が主導的に安定を確保しないと、若い人で農業に取り組む人は育たないのではないかと。	3
西袋	C 4	1-1 子育て環境の充実	自分の知人で、子どもができたことを機に、子どもへの手当てが充実している古殿町へ転出してしまった人がいる。子育て世代への支援をもっと手厚くしていかなければならないと思う。	1
西袋	C 5	2-2 安全で安心な生活の推進	交通量が多かったり、右折信号が無い箇所などで、朝夕の交通渋滞がひどく、その部分を見ると「住みにくい」と感じてしまうところもある。単独の区でなく、地域で団結して要望していき、解消に努めている。	4
西袋	C 6	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	人と接する機会が少なくなってきている。昔と違い、気軽に誰にでも声をかけられる社会ではなくなってきているので、近所に住んでいる人ともなかなか顔見知りになれない。そのことで不安感、不信感があると、いざというとき支障になる。	4
西袋	C 7	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	高齢者の安全という面では、地元スーパーから包括支援センターに、高齢のお客様の様子を見てほしいとの通報があったケースもある。早めにこうした支援制度を頼ってほしい。	1
西袋	C 8	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	コロナ禍でコミュニティの状況が変わってしまった。西袋でも、地区によって近所付き合いの程度に差があると感じる。今までできていた近所付き合いができなくなった。なんとか交流の場を設けていくことが必要と考える。	2
西袋	C 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	西郷村、中島村などで比較的若い世帯が増えてきていると聞く。公共料金が安いことなども要因のようだ。若い世代の転入を増やすには、魅力的なまちづくりが必要である。	1
西袋	C 10	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	区で敬老会を実施することになったが、地域に住んでいる高齢者の情報がわからない。市役所でも個人情報をお知らせすることができないことに加え、近所の状況がわからないため、運営に苦慮している。	1
西袋	C 11	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	空き家が増えていくことが心配。	1
西袋	C 12	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	市街化調整区域に住居を建てるできないということが、支障になっているケースが多々ある。須賀川に住みたくても希望するような地域には住宅用地がないという状況も聞く。未来のことを考えると、こうしたルール緩和を考慮し直す必要もあるのではないかと。	1
西袋	C 13	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	内陸で養殖業を行っている事例を聞いたことがある。若い人の考え方で新たな産業ができる環境を後押ししたい。	1

1 概要

地域	稲田		
会場	稲田公民館		
開催日	5月30日（月）		
参加者数	男性	19	人
	女性	7	人
	計	26	人

意見
総数

43

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
稲田	A 1	1-2 学校教育の充実	「子どもたちを育てる」がまちづくりにもつながる基本だと思う。教育では、学力だけでなく、人を思いやる心を育てることも大事だと思う。	1
稲田	A 2	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	須賀川には松明あかしや牡丹園などがあるのだから、もっと活用すべき。人を集めることが大事。	1
稲田	A 3	1-1 子育て環境の充実	人口を増やすためには、若い人が頑張って主体となる必要がある。	1
稲田	A 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	稲田地域の人口が減っていることは実感している。区の役員のなり手が不足している。	1
稲田	A 5	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	稲田地域でも貧困問題はあると思う。	1
稲田	A 6	1-1 子育て環境の充実	結婚しない、または結婚しても子どもを産まない人は増えていると思う。「結婚しろ」とはいえないが、せめて結婚した夫婦が子どもを何人産んでも安心して子育てできる政策が必要と思う。	1
稲田	A 7	1-3 生涯学習・スポーツの推進	育成会の運営で課題なのが、肝心の子ども数が減っていることもあるが、親が役員になりたくなかったり、人との交流が煩わしいと考え、育成会に入らないことがある。親の考え方も変わってきていることだと思う。	1
稲田	A 8	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	農地転用がしやすくなるといい。転用して家や店舗を建てれば人口は増えると思う。	1
稲田	A 9	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	高齢者に優しくないまちになってきていると感じる。一例として公共交通機関の不便さがあげられる。高齢者に優しいまちは、将来、一度出て行った子どもたちが戻ってきやすいまちだと思う。	1
稲田	A 10	3-2 農林業の振興	農家の後継者不足を感じている。子どもが家を出てしまい、80代になっても現役の人もいる。	1
稲田	A 11	3-2 農林業の振興	農業は魅力を感じない。だから、子どもが跡を継いでくれない。	1

稲田	A 12	3-3 商工業の振興	お店が減っており、買い物は市街地や長沼など、遠くまで行っている。地理的な地域の中心部にお店を出してはどうだろうか。	1
稲田	A 13	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	昔は何かするとなるとみんなで話し合い、協力し合うなど、思いやりを持っていた。 今は、自分のことだけを考える人が増えていると思う。	1
稲田	A 14	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	心の拠り所になる居場所づくりが大事だと思う。	1
稲田	B 1	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	この地区でも人口減少が進み、空き家が増えてきている。人口を増やすためにはニュータウンを作るのがいいのかもしれないが、地域のコミュニティが維持できるかの不安もある。	1
稲田	B 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	人が増えても、新しく来た人が今の住民と同じ感覚（コミュニティへの参加意識）でいられるかは疑問である。 今住んでいる人が出ていかずに、現在の規模やコミュニティが維持できればよい。	1
稲田	B 3	3-2 農林業の振興	農家も高齢化しており、10年後を考えると厳しい。	1
稲田	B 4	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	新たな観光として現在の大河ドラマに出てくる二階堂家とのつながりをPRできればよい。	1
稲田	B 5	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	高齢者が活躍できる場が少なくなっているように思う。 高齢者が支え合える機会を地域ごとに作ればよいのではないか。	1
稲田	B 6	1-1 子育て環境の充実	子どもが集まれる場やイベントが作れるとよい。	1
稲田	B 7	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	住民が地域での将来像を描いていくためには、自助、共助、公助をコミュニティで行い、地域のコミュニティをしっかりと組んでいくことが必要である。	1
稲田	B 8	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	安全安心で、互いに手を差し伸べられる地域コミュニティになっていければよい。	1
稲田	B 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	老人クラブを運営するための、地域の協力が足りない。地域では婦人会も育成会も活動していない。地域としての協力が欲しい。	1
稲田	B 10	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	子どもたちに地域の由来を教える、なぜ須賀川でウルトラマンを活用しているのかを考えるなど、小さいころから地域を知るための学習が大切である。	1
稲田	B 11	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域コミュニティを維持するためには、最終的には人間形成である。地域で生活するための義務を認識するべきである。	1
稲田	B 12	4-3 開かれた行政の推進	公民館が地元の活動に協力してくれている。	1

稲田	B 13	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	稲田地域の10年後へのスローガンやテーマを作って、館報や学校だよりなどを通して、地域みんなで共有していけばよいのではないか。	1
稲田	B 14	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域コミュニティを維持していくためにも、地域の核になる人材を育て、増やしていければよい。	1
稲田	B 15	4-3 開かれた行政の推進	ワークショップ、パブリックコメントなど、聞きなれない言葉はわかりづらい。わかりやすい言葉を使ってほしい。	1
稲田	B 16	4-3 開かれた行政の推進	公民館職員はすぐに異動させずに、3～5年は固定させて地域と一緒にになって地域のために活躍してほしい。	1
稲田	C 1	3-2 農林業の振興	農業の後継者がいない。米の値段が安い。	2
稲田	C 2	1-1 子育て環境の充実	少子高齢化が進み、子どもが少ない。	1
稲田	C 3	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	働く場所の確保を優先的に取り組んで欲しい。	2
稲田	C 4	1-1 子育て環境の充実	出産に関する助成がもっとあっても良いのではないか。安心して産める環境の整備をして欲しい。	2
稲田	C 5	2-1 防災・減災対策の推進	地域のつながりが薄くなってきている。防災の面からも地域の人の顔がわかればよい。	2
稲田	C 6	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	郡山や白河にも仕事があるので、仕事面でも須賀川に住むメリットがあれば人口流出も抑えられるのではないか。	1
稲田	C 7	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	福島空港はもっと活用できるのではないか。	1
稲田	C 8	1-1 子育て環境の充実	子どもを安心して預けられる環境の整備を進めてほしい。	1
稲田	C 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	行政区の存続に危機感を抱いている。高齢者が増え、若い人が役員を掛け持ちすることも多く負担になっている。	1

1 概要

地域	小塩江		
会場	小塩江公民館		
開催日	5月31日（火）		
参加者数	男性	13	人
	女性	3	人
	計	16	人

意見 総数
59

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
小塩江	A 1	2-2 安全で安心な生活の推進	足（交通手段）が問題である。免許を返納すると足がなく、返納できないでいる。	3
小塩江	A 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	あおば町は人口が増えているが、横のつながりが薄い。	1
小塩江	A 3	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	街中はキレイに整備されており、キレイなところには人が来るイメージがある。この辺りは草が生えっぱなしで、ごみも捨てられる。	1
小塩江	A 4	1-2 学校教育の充実	小中学校は10年かからないうちになくなるだろう。学校がないと若い人が住まない。現状、部活動の選択肢もない。	1
小塩江	A 5	2-1 防災・減災対策の推進	消防団の10年後も見えない。人が少なくなってきたなら、少なかりに見直しを図るべきではないか。	1
小塩江	A 6	2-2 安全で安心な生活の推進	今運行されているバスをなくしてはダメだと思う。なるべく一人ひとりが利用していかないと維持できない。	1
小塩江	A 7	2-2 安全で安心な生活の推進	デマンドタクシーは利用が少なそうである。待ち時間が問題である。	1
小塩江	A 8	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域の方が集まってできる行事があればよい。若い人がいないので、未だに地域の行事を消防団が運営している状況である。	1
小塩江	A 9	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	この辺りは駅もあるし、空港も近いし、買い物も楽である。住みやすいと思うが、人の流入はない。何がダメなのだろうか。このあたりにも住めるような環境づくりが必要と考える。	2
小塩江	A 10	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	下水道が整備されていなく、不便である。	1
小塩江	A 11	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	地域に公園がない。公園の作り方を教えてほしい。	1

小塩江	A 12	3-2 農林業の振興	耕作放棄地がある。農地のマッチング等も公民館でできればよい。	1
小塩江	B 1	1-1 子育て環境の充実	過疎化、少子高齢化の進行をかなり感じている。	5
小塩江	B 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	過疎化により、企業の撤退、農耕地の放棄、空家の増加、鳥獣被害など、様々なマイナスの状況が増えることが考えられる。	1
小塩江	B 3	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	デジタル化を進め、サテライトオフィスを誘致するなど、関係人口の増加を図るべきである。	1
小塩江	B 4	1-2 学校教育の充実	地域に子どもはいるが、学区外に通う子どもが多い。阿武隈小学校があふれてしまう現状であれば、小塩江小へ通ってもらえないのか。	2
小塩江	B 5	3-2 農林業の振興	農家も高齢化している。機械や肥料にお金がかかるが、作物が高く売れない現状であるため、農家が減っていく。	3
小塩江	B 6	2-2 安全で安心な生活の推進	子ども達のバス通学が増え、歩いて学ぶことできないのが寂しい。安全な道路整備も必要だが、通学路の草刈りについてもどこまでが自分の土地か分かっていない人がいる現状である。	2
小塩江	B 7	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	農業や自然の良さを活かした企業（研究所や加工業）の誘致ができないか。	2
小塩江	B 8	1-2 学校教育の充実	地元の中学生も学校がなくなってしまうことを心配している。中学生がウルトラFMで地域の魅力の発信を行うなどの活動をしている。	1
小塩江	B 9	1-2 学校教育の充実	子どもが学校を選ぶ理由に部活がある。子どもたちのニーズに合わせた部活を設定するなど、子どもが学校を選べる環境を作ってはどうか。	1
小塩江	B 10	1-2 学校教育の充実	3世代交流事業をすることで、子ども達も地域の人との繋がりを感じ、挨拶ができるようになった。学区編成ができれば地域としての生き残りもできるのではないか。	1
小塩江	B 11	3-2 農林業の振興	農業については、共同体での実施や経験者を加えた組織づくりなどが良いのではないか。農業企業の誘致も考えられる。	3
小塩江	B 12	3-2 農林業の振興	農業を残していく、続けていくためにはブランド化が効果的と感じる。	2
小塩江	B 13	1-2 学校教育の充実	3世代交流事業に、他の地域から子どもを参加させるなど、特色ある学校づくりができないか。	2
小塩江	B 14	1-2 学校教育の充実	水郡線を活用し、郡山（守山地域）市内の子どもが本地域の学校に通学することはできないか。	2

小塩江	C 1	4-3 開かれた行政の推進	“住み続けたいまち” はいいテーマだと思う。	1
小塩江	C 2	1-1 子育て環境の充実	子どもが少ないが、住んでみると須賀川はいいところだと思う。さらに子育ての支援が多くあればよい。	1
小塩江	C 3	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域の若い人は育成会や消防などに入らない。入れない事情もあると思うので、なんらかの形で地域に貢献できれば良いと思う。	1
小塩江	C 4	1-1 子育て環境の充実	須賀川は利便性が良く、アクセスも良い。子育て世帯でも住みやすい場所と感じている。	1
小塩江	C 5	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	若い人が戻ってくるためには、仕事が多くあるといい。ウルトラマンなどを活用して、仕事も活気も増えるといい。	1
小塩江	C 6	1-1 子育て環境の充実	子育てしやすいまちが、人口が増えるまちだと思う。	1
小塩江	C 7	1-2 学校教育の充実	人口が減っても学校を無くさないことが重要だと思う。	1
小塩江	C 8	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	宇津峰大橋が整備されたら、あわせて道路整備が進んでほしい。交通の便がよくなれば、物流センターや工場等ができ住宅も増えるのではないかな。	1
小塩江	C 9	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	耕作をしていない田畑が多いので、区域指定を外して住宅を作るなどをしてほしい。	1
小塩江	C 10	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	子どもが少なく、廃品回収もままならない状況にある。	1
小塩江	C 11	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	若者が地元に戻ってきて仕事を探すのはなかなかハードルが高い現状にある。仕事が多い都会で就職してしまう。魅力的な仕事や大きい企業などがあればよいのではないかな。	2
小塩江	C 12	3-2 農林業の振興	農業は子どもが継いでくれない。高齢では農業は難しい。現状、米では生計は立てられない。高齢者でもできる農業があればよい。	1
小塩江	C 13	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	魅力のアピールの仕方が上手であれば、もっと発展していくと思う。ウルトラマンを最大限活用してほしい。	1
小塩江	C 14	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	子どもを取り込めば大人はついてくる。SNSやメディアを利用してもっと全国へPRをしてほしい。	1
小塩江	C 15	1-2 学校教育の充実	小塩江地域内では、あおば町にのみ子どもが多く、阿武隈小学校に通学しているが、希望者は小塩江小学校にスクールバスで送迎するなど、均衡を図ってはどうか。	1

1 概要

地域	仁井田		
会場	仁井田公民館		
開催日	6月 6日 (月)		
参加者数	男性	17	人
	女性	2	人
	計	19	人

意見 総数
51

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
仁井田	A 1	3-2 農林業の振興	農家をやっているが、長男が戻ってこず、担い手不足である。どうやって戻ってきてもらうかが課題。	1
仁井田	A 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	館ヶ岡地区では高齢化が進んでいる。こういう集まり（地域懇談会）も若い人に参加してもらいたい。	1
仁井田	A 3	3-2 農林業の振興	農家の高齢化が課題。後継者となりうる人に魅力を伝えていかないといけない。	1
仁井田	A 4	3-2 農林業の振興	農地はあるので、園芸が好きな方に貸したい。	1
仁井田	A 5	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	今は70軒くらいの家があるが、10年後は何軒になっているか不安である。	1
仁井田	A 6	3-2 農林業の振興	多くの方が兼業農家である。できれば、農地を保有しながら、誰かに作付けしてもらえればありがたいと思っている。	1
仁井田	A 7	1-1 子育て環境の充実	子どもが生まれたらお祝い金を出してほしい。出生率の増加につながるのではないかな。	1
仁井田	A 8	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	県外の大学に行く人が多い。県外に出ると帰ってくるかどうかの問題。須賀川市に仕事があればと思う。	1
仁井田	A 9	2-2 安全で安心な生活の推進	息子は「住みやすいから」という理由で須賀川市に帰ってきた。	1
仁井田	A 10	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	農地法の絡みで家を建てられず、子どもが戻ってこれない状況である。	1
仁井田	A 11	1-1 子育て環境の充実	仁井田地域の子どもの少なさにびっくりした。	1

仁井田	A 12	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	令和7年の須賀川駅改修により、この街は変わると思う。	1
仁井田	A 13	1-2 学校教育の充実	少子化が進むが、仁井田地域の学校は現状何とか2クラスを保っている。	1
仁井田	A 14	1-1 子育て環境の充実	独身者が多い。	1
仁井田	A 15	3-2 農林業の振興	スマート農業は経費がかかって個人では難しい。何人かで出資するなど、取り組み方法を考えないといけない。	1
仁井田	A 16	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	須賀川市には、仕事はあるにはあると思うが、それがやりたい仕事かは別だと思う。	1
仁井田	A 17	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	須賀川市は、白河市よりは仕事が少ないと感じる。	1
仁井田	B 1	3-2 農林業の振興	65歳～75歳の農家が多く、担い手の減少が課題。地域の人間で10年後の農業の姿を話し合い、さらに飛躍させたい。また、この地域で成功事例をつくりたい。農業の法人化も必要と感じている。	1
仁井田	B 2	1-2 学校教育の充実	小学校までの距離が遠い。登校時は集団登校だが、下校時には70歳の父が迎えに行っている。送迎バスがあれば良いと思う。	1
仁井田	B 3	1-1 子育て環境の充実	保育所を利用する際の金銭的負担が大きい。子育て環境の整備を考えてほしい（特に経済的支援）。小学校、中学校にあがっても、クラブ活動や部活動でお金はかかる。	1
仁井田	B 4	3-3 商工業の振興	滑川地区の工業団地整備について、農地の所有者たちが気にかけている。市で方針を明確にしてほしい。滑川では農業組合がなくなったりと、農家の減少がうかがえる。工業団地が整備されれば、働く人も増え、地域の雰囲気も変わると思う。	2
仁井田	B 5	2-2 安全で安心な生活の推進	定年をきっかけに戻ってきたが、自然環境もよく住みやすいまちだと思っている。うまくアピールできればいいのではないかな。特に河川をきれいにできればいいと思う。	1
仁井田	B 6	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	向陽町でも人が減っている。働く場所がないことが原因にあると思う。郡山に流れる人が多い印象。職がないと子どもを育てるのも大変。	1
仁井田	B 7	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	まちづくりは将来の維持管理を考えて進めるべき。街路樹ひとつとっても、将来、樹が育った時の管理の仕方も見通して整備しないと、行政や住民の負担となってしまふ。	1
仁井田	B 8	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	親自身が、子どもが出て行ってしまってもしょうがないと思っている。村普請が多すぎるのも原因かもしれない。高齢者と若者の価値観の違いもあるから難しい。	2
仁井田	B 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	ニュータウン等に比較的若い世代が入ることで、地域全体で見ると若返っている印象もあるが、昔からの集落等では高齢化が進んでいるのが現状である。	2

仁井田	C 1	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	介護や福祉に関する面では、コロナ前までは対面での相談や面談が主であったが、コロナ禍での現在はwebでの相談・面談が増えてきている。遠方の家族などとは面談しやすくなったというメリットもある。	1
仁井田	C 2	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	人との関わりが少なくなっている。仁井田地区では民生委員や区の役員など、比較的様々な人が関わっているため、何か心配なことなどあれば早めに動いたり相談したりできている。	2
仁井田	C 3	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	館ヶ岡地区では、昨年1件だけ家が増えた。どこの地区でもそうだと思うが、人を増やすことは難しい。	2
仁井田	C 4	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	仁井田地区から、比較的近い向陽町や季の郷の住宅地へ若い人たちが家を建てて住むケースが多い。	1
仁井田	C 5	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	空き家の問題が最近増えている。館ヶ岡地区では定期的に地区内を役員が巡回するなどして、空き家の除草や立木の伐採など、必要に応じて遠方にいる親族へ連絡を取り、許可を得ながら対応している。	1
仁井田	C 6	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	空き地問題については、遠方にいる家族もなかなか管理に来ることができず、実際に来たとしても水道を止めているため、掃除する水やトイレの問題がある。	1
仁井田	C 7	1-1 子育て環境の充実	人口増を目指すなら、子育てしやすい環境の整備が急務。子どもを安心して育てられる政策があるといいのではないかと。医療や教育についてはすでにやっていると思うが、それ以外にも魅力あるものがほしい。	1
仁井田	C 8	1-1 子育て環境の充実	鏡石町や西郷村など、子育てに力を入れていて人口が増えている町村もあるようだ。新幹線など交通の利便性もいいこともあるが、町村規模であればコンパクトに施策を進めることができるのだと思うが、須賀川市の規模になるとそれがなかなか難しいのではないかと。	1
仁井田	C 9	2-2 安全で安心な生活の推進	今後高齢になり免許返納した後、病院や買い物などに行く手段がなくなるのが不安である。バスやデマンドタクシーなども、全ての地区を通っている訳ではなく、若い人と一緒に住んでいないとなると、どうやって交通手段を確保するかが大きな問題である。	3
仁井田	C 10	3-2 農林業の振興	米やキュウリの値段が下がり、農家の収入が増えない。福島というだけで他のところより取引の価格が安くなってしまったり、農家収入と年金だけの生活は大変だと感じる。	1
仁井田	C 11	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	交流人口の増加を図ることが必要。須賀川に来てもらうことはもちろん、いかに長い時間滞在してもらえるかが大事である。そのためには、魅力があり、たくさんの資源を活用できるまちづくりが必要。	1
仁井田	C 12	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	市内でも、中心部の盆踊りなどにばかり補助するのではなく、例えば、地域の盆踊りや夏祭りなど、各地域のイベントに補助をしてほしい。地域から盛り上げ、活性化を図っていくことで市全体が活性化していく。	1
仁井田	C 13	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	仁井田地区では、三世代交流をおこなっている。団子差しなど、多様な世代との交流ができている。	1
仁井田	C 14	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	仁井田にはたくさんの宝がある。摩崖仏、一夜館、10月のお祭り時の奉納相撲など、仁井田の伝統と魅力をどんどんアピールしていけばいいと思う。例えば、外国人や関取を呼んで奉納相撲をやるなど、魅力的な活動を外に発信していく。	2
仁井田	C 15	1-3 生涯学習・スポーツの推進	他の地域の方が、季の郷や向陽町にわざわざウォーキングに来ている。ウォーキングコースにいい場所のようなので、整備をして活用するのも一つではないかと。	1

仁井田	C 16	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	SNSの活用。「いいね」と興味を持った人がさらにその情報を広めてくれることで、有名になった場所もあるので、景色のいい場所や、仁井田にある宝を上手に発信していけばいいのではないかな。	1
仁井田	C 17	2-2 安全で安心な生活の推進	地域によっては、時間のある方に運転してもらい、乗り合いで病院や買い物に行くなど、助け合っているところもあるようだ。一つの方法として、地域で支えあうことで移動手段を確保し、コミュニティの活性化の方法として活用するのもいいのではないかな。	1

1 概要

地域	大東		
会場	大東公民館		
開催日	6月 2日 (木)		
参加者数	男性	18	人
	女性	5	人
	計	23	人

意見
総数

63

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
大東	A 1	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	後継ぎとなる若者自体はいても、大東地域ではなく街中に出て行ってしまっている。若者が地域に魅力を感じていないのか、地元に住んでいないことが問題だと思う。	2
大東	A 2	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	地元で就職しても賃金が安く、なかなか結婚できない原因になっているのではないかと。	1
大東	A 3	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	ごみ拾いをしてもきりが無い。ごみを拾ってきれいにするということよりも、ごみを捨てない意識を小学生の頃から指導する必要があると思う。	1
大東	A 4	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	まちづくりについては、土地利用の法律などのルールに問題がある。総合計画では都市計画や農振の見直しについても言及するべきと考える。	3
大東	A 5	1-1 子育て環境の充実	大東地区はこども園、幼稚園、小中学校が近い立地であり、子育てには良い環境だと思う。	1
大東	A 6	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	都市計画区域と農地法の制限によって、土地があっても自由に使うことができない。法律が昔から変わっていないが、社会的な状況は変化しており、土地利用の考え方を変えていく必要がある。	3
大東	A 7	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	昔は小作田地区が一番人口が多い地区であったが、現在では雨田地区が一番人口が多い。都市計画上、新築の家を建てられる区域があり、学校が近いことから、新しい世帯が入ってきている。	1
大東	A 8	2-1 防災・減災対策の推進	小作田地区は水害のイメージが強くなってしまった。かつては多くあった商店もほとんどなくなってしまった。令和元年の台風以来、多くの空き家を取り壊した。	1
大東	A 9	1-1 子育て環境の充実	大東地区では子どもの数がかなり少なくなっている。大森小学校学区では、30人程度しかいない。経済的な理由で子どもが少ない家庭が増えている。	2
大東	A 10	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域の役員のなり手が不足している。	2
大東	A 11	2-2 安全で安心な生活の推進	地元に残らないのは、勤め先が地元がないことよりも住みやすい生活環境としての魅力を感じていないからだと思う。一度地域外に家を建ててしまうと戻ってこない。	1

大東	A 12	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	大東地域には「まち」というイメージがわからない。どうしても、「田舎」というイメージを持ちがちである。	1
大東	A 13	2-2 安全で安心な生活の推進	地元で暮らしていく中で、自家用車が使えない状況になった時にどのように移動手段を確保するか不安がある。	1
大東	A 14	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	須賀川市ほど、県内各所（福島市、郡山市、会津、いわき）へのアクセスがよいところは無い。利便性を知ってもらえば、須賀川に住みたいという人はたくさんいると思うが、現状ではアピールが下手だと思う。	1
大東	A 15	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	自奉楽は、昔は代々受け継いで伝えてきたが、最近はコロナの影響や、そもそもやれる世代がいらないことにより実施できない状況が続いている。文化の継承に苦慮している。	2
大東	A 16	3-2 農林業の振興	農業の維持のために、個人ではなく、営農集団として実施したり、法人化するなどで収益を分配するようなやり方に変えていく必要があると思う。	2
大東	B 1	1-1 子育て環境の充実	人口減少を防ぐためには、若い人に転入してもらい、子どもを産んでもらうしかない。そのためには、出産祝い金や税制優遇などを行えばよいのではないか。子どもを3人産み育てられる社会づくりが必要である。	1
大東	B 2	2-1 防災・減災対策の推進	人口減少を抑えるために、令和元年台風の教訓に基づく防災対策の推進や住宅造成なども必要であると思う。	1
大東	B 3	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	大東地域では、土地の用途区分を外さないと、家が建てられない場所が多い。人口減少を防ぐためにも、まずは区分の緩和や見直しを早急に図ってほしい。	3
大東	B 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	まちづくりの専門家などと共に協力して地域の未来を計画し、取り組んではどうか。みんなで取り組める体制づくりができればよい。	1
大東	B 5	3-2 農林業の振興	農家をやる人が少なくなっている。JAと連携した取り組みを進めてほしい。	1
大東	B 6	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	人口対策を考えると、区域ごとに土地利用の取り組み方法を変えるべきではないか。	1
大東	B 7	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	福島空港の立地を最大限にいかして、人口増加につなげてほしい。	1
大東	B 8	4-3 開かれた行政の推進	もっと目標人口を高く設定するべきではないか。	1
大東	B 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	小作田地区は空港道路が開通してから通過地点になってしまっている。地域の方が集まる場所になればよい。	1
大東	B 10	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	家の後継ぎがない。若い人はみんな街中に住んでしまっている。	1

大東	B 11	1-1 子育て環境の充実	既婚者が少なく、独身者が多い状況になっている。テレビなどでやっているような花嫁募集イベントを行ってはどうか。	1
大東	B 12	1-2 学校教育の充実	学校の給食費などの諸経費負担を減らすことで、人口の流入が進むかもしれない。地域限定で行うなど、地域の特色として取り組んではどうか。	1
大東	B 13	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	福島空港があるので、航空関係の専門学校を誘致するなどしてはどうか。若い人の増加にもつながるのではないかな。	1
大東	B 14	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	住宅が増えている地域では町内会に加入しない世帯が増えている。	1
大東	B 15	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	自宅の玄関前の草刈りさえしない地域になってしまっている。昔の良き常識や習慣がなくなってきている。	1
大東	B 16	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	若い世代からすると、町内会に加入するメリットが分からない。	1
大東	B 17	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	町内会に加入していなくても、協力金を払えば、ごみステーションの利用や広報配布などを行っている地域もある。地域で対応を考えることもできる。	1
大東	B 18	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	お嫁に来た奥さん同士がつながると、地域の付き合いが増えていくのではないかな。婦人会のような組織を復活してはどうか。	1
大東	B 19	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	市が、自治会やコミュニティ活性化の成功例を地域に持ち込み、取り組んでほしい。	1
大東	B 20	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	今回のように住民同士で話をする機会が大切である。	1
大東	C 1	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	大東地域は”花桃”が知れ渡ってきているが、さらに何とかPRし活用したい。現状は伸び悩んでいる。	1
大東	C 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域の若者が少なく、消防団もOBが再入団するなど団員確保が困難である。	1
大東	C 3	2-2 安全で安心な生活の推進	独身者が多く、空き家も多い、治安が不安である。	1
大東	C 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	嫁不足により、婦人会活動ができていない。	1
大東	C 5	1-1 子育て環境の充実	大東こども園には地元より、他地域からの入園児が多いため、保護者の顔が見えづらく、つながりが弱い。	1

大東	C 6	1-1 子育て環境の充実	こども園、小学校、中学校が集中している周辺は新たな家が建ってきている。子育てがしやすく住みやすい地域と感じる。	1
大東	C 7	2-1 防災・減災対策の推進	令和元年の台風19号により被災したが、やはり防災に強いまちづくりが求められる。災害があると人口が減る。	1
大東	C 8	1-1 子育て環境の充実	独身者が多く出会いの場所が欲しい。	1
大東	C 9	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	アジサイを使ったPRが求められる。	1
大東	C 10	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	県重要文化財の古寺山は、小学校と一緒に守っていく。伝統を守り人を増やす。	1
大東	C 11	2-2 安全で安心な生活の推進	川東駅も空港もあるのに、使っている人がいない。	1
大東	C 12	2-2 安全で安心な生活の推進	市内循環バスの本数が少ない。かつ安く利用できればよい。	1
大東	C 13	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	道路が悪く、狭い道ほど人が少なくなる。	1
大東	C 14	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	町内会加入=しびりが強い。このことで加入に至らない。	1
大東	C 15	3-3 商工業の振興	コンビニには若者が集まっている。昔からの商店街との共存がなかなか難しい。	1
大東	C 16	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	若者に何をしてあげられるだろう。	1

1 概要

地域	長沼		
会場	長沼保健センター		
開催日	6月 9日 (木)		
参加者数	男性	14	人
	女性	5	人
	計	19	人

意見
総数

52

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
長沼	A 1	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	息子が東京に行った。将来は戻ってきたいようだが、戻するためには仕事が必要である。	1
長沼	A 2	1-1 子育て環境の充実	小さい子どもたちの声が聞こえるような地域になってほしい。	1
長沼	A 3	1-1 子育て環境の充実	若い人たちが住み続けられる地域になってほしい。	1
長沼	A 4	1-1 子育て環境の充実	子育てがしやすい地域にならないといけない。	1
長沼	A 5	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	大学等で県外に行った人たちが戻ってきても、仕事や生活の問題がある。	2
長沼	A 6	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	高齢になっても住みやすい地域になってほしい。	1
長沼	A 7	2-2 安全で安心な生活の推進	免許を返納した高齢者などは、買い物や病院に行くのも大変である。	1
長沼	A 8	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	若い人にも来てほしいけど、老人も大切である。	1
長沼	A 9	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	例えば中学校周辺に商店や病院などを集めるなど、あらゆる施設を集約するのも手ではないか。	2
長沼	A 10	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	田舎に住むにあたって発生するコストへの補助が必要ではないか。	1
長沼	A 11	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地区の行事への集まりが悪い。	1

長沼	A 12	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	子育て世代が転入してくるためには、雇用が大切である。	1
長沼	A 13	2-2 安全で安心な生活の推進	老人は自分で行きたいところに行けない。足の確保をどうするか。バス停までも行けない。	2
長沼	A 14	3-2 農林業の振興	収入面や楽しさなど、農業のイメージアップが必要である。	1
長沼	A 15	1-2 学校教育の充実	学校に優秀な先生を呼び、教育のレベルを上げ、他の地域からも長沼地域の学校に通うという選択肢を考えてもらいたい。	1
長沼	A 16	2-2 安全で安心な生活の推進	人との交流が大事。アスクにくると元気になる。そのためにも、地域内で移動できる仕組みが必要ではないかと思う。	2
長沼	A 17	2-2 安全で安心な生活の推進	気軽に利用できる移動手段を手配するアプリを開発してはどうか。	1
長沼	A 18	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	長沼まつり（ねぶた）に参加した経験は、戻ってくる動機となるのではないか。	1
長沼	A 19	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	さくらスタンプラリーなど、商工会でできることからやってみようと思う。	1
長沼	A 20	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	地域の行事等に携わり、「自分たちでやったんだ」と思うことが、地域への誇りにつながるのではないか。	1
長沼	B 1	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	後継ぎが同居している家が少なくなっている。10年後には集落が消滅してしまうのではないかという危機感がある。	1
長沼	B 2	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域でリーダーシップのある人材がいなくて感じる。地区の慣習や事業がどんどん縮小しており、さみしいと感じるときもある。	1
長沼	B 3	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	昔は商店街があり、コミュニティの場になっていた。まちにコミュニティの場があれば良いと思う。	1
長沼	B 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	婦人会があるが、新たに入る人はいない。市の連絡協議会は無くなってしまったという危機感をもっている。	1
長沼	B 5	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	P T Aや育成会でも、同じ人で役員を回している状況。若年層では「コミュニティ活動は面倒くさい」と考えている人が多いようだ。	1
長沼	B 6	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	子どもを中心に考えると、コミュニティに参加することは必要だと思う。コロナ禍で放課後に友達と遊べる機会が少なくなっている。子どもの数自体が少なく、近所に同年代の子どもがいない。	1

長沼	B	7	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	県外からすると須賀川市の知名度はまだ低い。市外への情報発信も大事で、「須賀川市はこういうもので有名」と、子どもたちが誇れるものが発信できれば良い。	1
長沼	B	8	1-1 子育て環境の充実	子どもたちの声があふれるまちになってほしい。	1
長沼	B	9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	郡山から働きに来ているが、よく声をかけてくれるなど、地域の人々の良さを感じる。高齢者が活躍できる場があると良いと思う。	1
長沼	B	10	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	地元愛がある人が多い。	1
長沼	B	11	1-1 子育て環境の充実	高齢者が集まって、子どもの見守りができるような取り組みができれば良い。地域の児童クラブの役割を高齢者が担う。	1
長沼	B	12	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	それぞれの家庭できょうだいの数が少なくなっているため、子どもたちが社会のルールを学べるコミュニティがあるとよいと思う。	1
長沼	B	13	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	幼い頃から、「自分の生まれ育った地域はよかった」という思い出を作っておく必要がある。	1
長沼	B	14	2-2 安全で安心な生活の推進	子どもだけで出かけるには、交通量が多かったり道が狭かったりして危険な箇所があるので、対策が必要。	1
長沼	B	15	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	コロナ禍でもあり、ねぶたを開催できなくなってしまい、子どもたちの存在感を示せる機会がなくなってしまった。	1
長沼	B	16	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	地域の誇れるもの、自慢できるものがあれば、子どもたちはどんどん情報発信をして、魅力を広げていけると思う。	1
長沼	C	1	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	元気な街には収入源がある。長沼にも収入源が必要。	2
長沼	C	2	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	女性の活躍も応援できるまちだといいい。	2
長沼	C	3	3-2 農林業の振興	農家と小さな商店が主な産業だったが、農業は集団化が進み、農業経営も変わってきている。小さい農家ほど厳しく、継ぎ手となる世代は別の職を求めて出て行ってしまう。	1
長沼	C	4	3-2 農林業の振興	年寄りでも簡単に生産できる作物を研究して、効率的な農業ができるようになるといい。	1
長沼	C	5	3-2 農林業の振興	米以外の作物で儲かる環境がないと、若者に農家をすすめられない。	1

長沼	C 6	1-5 ともに支えあう福祉社会の推進	旧長沼高校を使って福祉のまちとして全国へアピールし、福祉の道を目指す若者があつまるといい。長沼で若者を育てるために、先進地に人を送って地元の人間を育てることも必要。	1
長沼	C 7	1-1 子育て環境の充実	働きながらの子育ては大変で、便利な市街地を選ぶ人が多い。地域には元気なお年寄りがいるのだから、その力を借りて子育てできるような環境があればいい。交流も生まれる。	1
長沼	C 8	2-2 安全で安心な生活の推進	地域の足の問題を解決したい。もともとあるスクールバスを使うなど新しい取り組みを始めやすい制度が欲しい。	2
長沼	C 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	行政側から、地域のために動いているボランティアのための応援をしてほしい。	1

1 概要

地域	岩瀬		
会場	岩瀬市民サービスセンター		
開催日	6月10日（金）		
参加者数	男性	12	人
	女性	4	人
	計	16	人

意見 総数
42

2 懇談での意見

地域	番号	政策区分	意見	意見数
岩瀬	A 1	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	高齢者が元気であることが大切だが、若い人が元気であることが、高齢者の元気につながる。	3
岩瀬	A 2	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	夫婦2人暮らしだが、今後1人になった時は、医者やお店がないので違うところで住みたい。	1
岩瀬	A 3	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	中学校では「ふるさと教育」「キャリア教育」として、市内での企業体験の機会を作っている。仕事がない訳ではない。	2
岩瀬	A 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域柄なのか、子どもも落ち着いている。住民の方との交流が増えれば活気のある地域になるのではないか。	2
岩瀬	A 5	3-2 農林業の振興	農業にITを導入するなど、今後の発展のためには、何かに特化した地域づくりが必要である。	1
岩瀬	A 6	2-2 安全で安心な生活の推進	この地域で生まれ育ってきたが、白河や猪苗代まで車で30分で行けることから、不便に感じていなかった。しかし、他地域から来た妻からすると大変不便であると言われた。	1
岩瀬	A 7	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	働いている女性が多いが、生活に余裕がないと感じる。昔は女性が仕事から離れ、子育てをしながら地域の交流が図れていた。通勤時間が長いことも原因の一つではないか。	2
岩瀬	A 8	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	住んでいる地域に企業がない。企業があれば人が集まるはず。「行きたい」「働きたい」場所があればよいと思う。	1
岩瀬	A 9	2-2 安全で安心な生活の推進	50年前はにぎやかだったが、今は医者もないしバスも来ない。車がないと住みづらい。	1
岩瀬	A 10	2-2 安全で安心な生活の推進	移動販売車が来たり、宅配システムを利用すれば高齢者でも不便を感じない。	1
岩瀬	A 11	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	地域の人と繋がりを持つことで、地元にいると落ち着くことや「ホッとする」感情になる。その感情が醸成できれば、地域外へ出て戻ってくるのではないか。	1

岩瀬	A 12	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	空き家が多い。	1
岩瀬	A 13	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	地域の祭りをやることで、ふるさとへの思い入れもできる。	1
岩瀬	B 1	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	核家族化が進み子どもがいない。スポーツや伝統芸能を通じて、子どもたちのつながりが作れると魅力ある地域になると思う。	1
岩瀬	B 2	1-1 子育て環境の充実	この地域で結婚をして、安心して子育てできる環境づくりが必要。	1
岩瀬	B 3	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	この地域を「住みたいと思える魅力あるまち」にしていくことが大事。	1
岩瀬	B 4	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	仕事で岩瀬地域に来ているが、地域の人が雪かきをしてくれているなど住みやすいまちだと思う。	1
岩瀬	B 5	3-2 農林業の振興	農業も後継者がいないため人口減少につながっている。岩瀬清流米のPR活動は、コロナによる事業の空白期間もあり、元に戻せるかが心配である。	1
岩瀬	B 6	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	機械やデジタルなどで解決できる課題は対策できると思うが、コミュニティの再構築は難しいと感じている。	1
岩瀬	B 7	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	昔は、地域を引っ張ってくれる人がいた。こういう人をつくれというのは難しいが、人を育てる体制づくりが必要だと感じている	1
岩瀬	B 8	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	悠久まつりの花火に感動した。花火師がいる強み、特撮アーカイブセンターもある。情報発信を工夫し、地区のつながりもつくれば、この地域には可能性があると思っている。	1
岩瀬	B 9	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	須賀川駅西において、若い人が集まり、ワークショップやイベントを行いながら展開している。最後には、こうしたつながりができることによりまちづくりができるものだと思う。	1
岩瀬	B 10	3-2 農林業の振興	岩瀬清流米などにより、消費者との交流ができ、田舎を知ってもらうきっかけとなっていたが、コロナウイルス感染症の影響によりできなくなってしまった。	1
岩瀬	B 11	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	岩瀬グリーン球場でフェスなどの屋外イベントをしてはどうか。来場者に悠久の里の温泉によってもらったり、地区で地場産品PRブースを設置したりするなど、連動できるようなしなかけもあると交流につながるのではないかな。	1
岩瀬	B 12	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	郡山に住んでいたが、岩瀬地域は水がおいしい。星もみれる。住んでいる人は感じづらいのかもしれないが、地域の強みだと感じている。	1
岩瀬	B 13	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	起爆剤となりえるようなもの、突拍子もないようなことをやらないと人が集まらないと思う。	1

岩瀬	C 1	1-1 子育て環境の充実	子育てしながら働くために、子どもを安心して預けられる場所があるといい。地域の元気なお年寄りの力を借りて、集まる場所をつくれば、世代を越えた交流が生まれる。	1
岩瀬	C 2	2-2 安全で安心な生活の推進	公共交通が問題である。高齢となり免許を返納すると足がなくなる。バス停は遠く、デマンドタクシーの計画区域の拡大もされていないことから、エリア外の方が多い。	1
岩瀬	C 3	2-3 生活基盤の充実と循環型社会の形成	郡山や市内への道路が整備されると、通勤しやすくなり、若い人にも住んでもらえるのではないかな。	1
岩瀬	C 4	3-1 雇用の創出と雇用環境の充実	働きたいと思えるような会社を誘致してほしい。働く場所の近くに住居を構えてしまう。	1
岩瀬	C 5	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	地域の宝「ウルトラマン」を生かしたPRをどんどん進めてほしい。特撮アーカイブセンター、駅前の像や市内の怪獣なども魅力ある。	1
岩瀬	C 6	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	特撮アーカイブセンターへの市外からの訪れる人が増加している。看板など作成しもっとPRできないか。	1
岩瀬	C 7	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	特撮アーカイブセンター周辺に何も無いのが残念である。立ち寄れる場所があるといい。	1
岩瀬	C 8	4-1 地域の宝の活用と交流の推進	地域の皆で盛り上げるものがあればいい。震災後の「ひまわり畑」は多くの人に足を運んでもらえてよかった。「たんぼアート」でウルトラマンなどもよいのではないかな。	1
岩瀬	C 9	3-2 農林業の振興	田畑の耕作放棄地が多い。農地の有効利用について、方法を考えてほしい。	1
岩瀬	C 10	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	駐在としての経験から、岩瀬地域の人々は助け合いながら生活されていると感じる。	1
岩瀬	C 11	4-2 市民協働によるまちづくりの推進	参加している行事は年1回の商工会中心のフェスティバルのみである。村民運動会は子どもが大きくなってしまって以降は参加しなくなっている状態である。	1